

国語科指導案

指導者 川上 健治

2. 単元名 オリジナル説明文「すがたをかえる〇〇」を書こう！

「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」

3. 単元（題材）の目標

- ・食べ物に関心を持ち、進んで調べたい材料を探し、説明文を書こうとしている。 【関心・意欲・態度】
- ・中心となる語や文を捉えたり、接続語に注目し、段落相互の関係を考えたりしながら、文章の内容を理解することができる。 【読む】
- ・説明の仕方について学んだことに気を付けながら説明文を書くことができる。 【書く】
- ・段落相互の関係を考えながら、接続語の役割を理解できる。 【言語】

4. 指導にあたって

児童は、1学期に「こまを楽しむ」の単元において、「はじめ」「中」「終わり」の文章構成を捉え、各段落の内容を考えていく学習をしている。この教材は「はじめ」に「どんなこまがあるか」と「どんな楽しみ方をしているか」の2つの問いがあり、「中」には問いに対する具体的な答えが列挙され、「終わり」には、問いに対するまとめの答えが書かれている典型的な説明文であった。児童にとっては「こま」という身近な遊び道具が題材になっており、また、文章内容も比較的読み取りやすいものとなっていたため、平易に読み取ることができた。

話し合い活動では、全体の場で発表しようとする児童が固定されてきていたので、1学期の後半から、ペアトークや班で班長を司会者として意見を伝え合ってから、全体で交流するという活動をしてきた。全体で交流する場面では、なかなか挙手できない児童も、ペアや班での交流の中では、意見を伝えられるようになってきた。一方で、発表時には、友だちに意見を伝えるのではなく、教師にだけに伝えようとする意識が強いという課題があった。この課題を克服するために、発表する際には、友だちがいる方向に体を向けて発表するということや声の大きさは一番遠くにいる友だちに聞こえる大きさと発表するというように友だちに向けて考えを伝える意識を持たせてきた。しかし、声かけをしなければ、すぐに意見を教師に伝えようとする児童や端に座っている友だちに声が届かない児童がまだ多数いるので、継続して取り組んでいく必要がある。

書く活動に関しては、1学期に学習した「気になる記号」で、身近な記号について報告する文章を書こうという課題のもと取り組んだ。報告文ということもあり、この際は、「調べたきっかけ」「調べ方」「分かったこと・思ったこと」という文章構成で書かせた。意欲的に自分の考えを盛り込みながら文章を書いていく児童も中にはいたが少数であった。多くの児童は、「調べたきっかけ」「調べ方」「分かったこと・思ったこと」についてただ箇条書きのような書き方をしていることで段落ごとのつながりがない文章を書いている実態があった。また、書くことは自分の頭の中にあっても、それを文章に書き落としていく活動になると手が止まってしまう児童も見られたことから、まだ自分の考えを書く練習量が足りてないと感じられた。また、4月から定期的に日記を書かせてきている。当初は、文章を書くことに抵抗を無くすことを目的に、思ったことをそのまま書かせ、文章構成や内容自体にも訂正を入れずに返してきた。6月からは「こまを楽しむ」で「はじめ」「中」「終わり」の文章構成を学習したことを機に、日々の日記でも、この文章構成を意識して書くように指導してきた。児童の中には、「終わり」の部分に、学習した「このように」や「だから」という接続語を使ってまとめを書く児童も増えてきた。しかし、思ったことを羅列しただけの文章を書いたり、同じことを繰り返し書いたりする児童がいるのも事実である。原因としては、文章をいくつかのまとまりとして考えられていないことや接続語が上手く使えていないことが考えられる。

本単元は、大豆の加工法を紹介した文章である。大豆の味と栄養を保つための工夫としての加工の種類について説明している典型的な解説型の文章となっている。身の回りにあふれている大豆やその加工食品について書かれており児童にとっては身近な内容となっている。また、大豆の加工食品は、一見大豆から出来ているとは思えないものが多いため、児童にとっては新しいことを知りながら、楽しく読み進められる良さもある。文章構成としては、「はじめ」「中」「終わり」の3つに分けられる。まず、「はじめ」で大豆についての話題提示をしている。これは、1学期に学習した「こまを楽しむ」で学習した文章構成が、「はじめ」に問いがあり、「中」で答えを確かめていくという文章構

成であるのに対して、「すがたをかえる大豆」は、「はじめ」に、説明する対象物である「大豆」を提示し、それについて説明していく解説型の文章である。つまり、明確な問いが文章中に出てこない書き方を筆者はしている。次に、「中」で大豆を美味しく食べるための工夫について5つの事例を順序立てながら説明をしている。この「中」の部分では、各段落が「接続語・くふう・食品名・作り方」といったように同じパターンで書かれているため、段落相互の関係が捉えやすくなっている。そして、「終わり」では、筆者の思いが「このように」という接続語以降にまとめられている。また、本教材では読み手にとって読みやすい文章を書くために、筆者は、表にある5つのわざを使っている。

わざ①	「はじめ」「中」「終わり」の文章構成で書いている。
わざ②	「中」の段落の最初の一文が中心文となっている頭括型で書いている。
わざ③	一段落に一つの事項を絵や写真をつけて説明している。
わざ④	「まず」「次に」「さらに」といった接続語を使って、事例を列挙している。
わざ⑤	読み手に読み進めてもらいやすいよう「作り方が分かりやすい順番」で事例を列挙している。

これら5つのわざを読み取り、理解していくことで書く活動に活用しやすい教材となっている。

学習指導要領では、「C 読むこと」の指導事項イ「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や意見と事実との関係を考え、文章を読むこと。」に関わっている。さらに、単元後半での、自分で探した食べ物のオリジナル説明文を書く活動へつなげることで、「B 書くこと」の指導事項ウ「書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。」や「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のク「指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。」にも関わっていく。

指導するにあたっては、第一次で「食べ物クイズ」を通して、食べ物の変化について興味を持たせる。そして、クラスで「オリジナル説明文～すがたをかえる〇〇～」を書こうという単元のゴールを伝え、見通しを持たせる。「オリジナル説明文」を書くためには、まず、読み手に分かりやすいように書くためのわざを知る必要があり、本単元では、そのわざを学ぶことが出来るということを押さえた上で、第二次の文章の読み取りに入っていきたい。

第二次では、説明文の書き方のわざを見つけるという課題のもと、まず「はじめ」「中」「終わり」の3つに分けたあと、筆者の書き方のわざについて読み取っていく。そして、第1時から第4時の毎時間の振り返りでは、「今日は～というわざを知りました。このわざを使うことで～」というように学んだわざとそのわざが使われていることで読み手が読みやすくなるということについてまとめていき、第三次の書く活動につなげていく。

第三次では、オリジナル説明文を書かせる。ここでは、「すがたをかえる〇〇」というテーマにすることと友だちに読んでもらいやすくするために、学んだわざの5つを必ず使って説明文を書くことを共通のルールとすることで児童のスタートラインを合わせられるようにする。その後、書いた説明文を紹介しあい、学級で一つの冊子にまとめ、いつでも誰もがみられるように学級文庫に加える。

本時では、単元のゴールであるオリジナル説明文の下書きをする活動を設定している。ここでは、読み手に読んでもらいやすい書き方が出来るかに焦点を当て説明文を書かせる。従って、既習事項である5つの「わざ」を用いて書くようにさせる。また、書く際には、ただ単に5つの「わざ」を使って書いていくのではなく、例えば、「わたしの書き方のポイントは、例の並べ方を見た目がみんなに分かりやすいもの順にしたことです。」というように、自分の書き方の「ポイント」を考えさせた上で書かせる。このことで、より「わざ」を意識して書けるようにさせたい。そのため、「事例の並べ方」「接続語の使い方」「各段落の書き方」「その他」に観点をしぼり、既習事項の「わざ」の中から「ポイント」を考えさせるようにする。その後、次時で下書きを自分で推敲できるよう、下書きを友だちと交流し、「ポイント」について友だちから意見をもらえるようにする。これまでの児童の日記やノートを見ていても、読み手のことを考えた書き方ではなく、思ったことをそのまま羅列して書いたり、同じ内容を反復して書いたりする実態から、書く力が育っていないことを感じる。しかし、この本時の活動で、既習事項の「わざ」を5つ使って書いたり、説明文の書き方の「ポイント」を考えながら書いたりすることで、読み手のことまで考えた「書く力」を育てられるようにしたい。そして、書く際に、接続語や事例の並べ方などに意識をもたせることで、次は、読む側になったときに論理的に読めるようになるのではないかと期待している。本単元の学習の最後には、出来上がったオリジナル説明文を紹介し合うことで、友だちが知らなかったことを教えられる喜びや新たなことを友だちから知る喜びも感じさせたい。

5. 単元の学習計画（全13時間）

次	時間	学習活動	主な支援のための留意点	評価と評価方法
---	----	------	-------------	---------

第一次	1	<p>オリジナル説明文「すがたをかえる〇〇」を書く計画を立てよう</p> <p>○「食べ物クイズ」を行い、食べ物の変化について知る。</p> <p>○範読を聞き、分からない言葉を辞書で調べる。</p>	<p>・牛乳や米が、すがたを変えていることをクイズ形式で知らせることで、食べ物の変化に興味を持たせる。</p>	<p>【関心】分からない言葉を丸で囲み、辞書を使って進んで調べようとしている。 [観察]</p>
	2	<p>○「オリジナル説明文」を書こうという学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p>	<p>・「すがたをかえる大豆」には読み手に読んでもらいやすいように筆者の書き方のわざが使われていることやそのわざを見つけ、次は自分がそのわざを使って説明文を書くという活動があることを知らせる。</p>	<p>【関心】「オリジナル説明文を書こう」という学習課題に意欲を持っている。 [観察]</p>
第二次	1	<p>筆者の説明文の書き方の「わざ」を読み取ろう</p> <p>○文章全体を読み、文章を「はじめ」「中」「終わり」の3つに分け、文章の組み立てについて考える。(わざ①)</p>	<p>・既習教材の「こまを楽しむ」の文章構成を想起させる。</p>	<p>【読む】問いがない話題提示があることを知り、文章構成を捉えている。 [ノート]</p>
	2	<p>○文章全体を読み、「はじめ」のかくれた問いについて考える。</p> <p>○3～7段落を中心となる文と具体例にあたる文に分ける。(わざ②)</p>	<p>・問いを考えることで、中心文を見つけやすくする。</p> <p>・中心文と具体文を図にまとめ視覚的に分かりやすくする。</p>	<p>【読む】「中」の部分から筆者がしている説明文の書き方のわざについて読み取り、それぞれの工夫の良さについてノートにまとめている。 [ノート]</p>
	3	<p>○「中」を読み、「中」の5つの事例の小見出しについて考える。(わざ③)</p>	<p>・図示することで、一段落に一つの事項を絵や写真を混じえて説明していることを捉えさせる。</p>	<p>【言語】接続語のはたらきを理解し、事例の順序について読み取っている。 [発言]</p>
	4	<p>○「中」を読み、「中」の5つの事例の順序について考える。(わざ④⑤)</p>	<p>・問いの答えにあたる部分が「くふう」と「食品」のことに書かれていることに気付かせる。</p> <p>・接続語に着目させ、事例の順序の意図について考えさせる。</p>	
第三次	1 2	<p>オリジナル説明文「すがたをかえる〇〇」を書こう！</p> <p>○調べたい材料を選び、どんな食品にすがたをかえているかを調べる。</p>	<p>・決めた材料の中から、それに関連することをマッピングしていく。</p>	<p>【関心】食べ物に関心を持ち、進んで調べたい材料を探そうとしている。 [発言・ノート]</p>
	3	<p>○分かりやすい文章の組み立てを考える。</p>	<p>・既習事項の説明文の書き方のわざ5つを使って書かせる。</p>	<p>【書く】二次で学んだ分かりやすい説明文の書き方のわざを選び、文章構成に応じて正しく使い説明文を書いている。 [ノート]</p>
	4 (本時)	<p>○説明する文章の下書きをして、下書きの文章と書き方の「ポイント」を交流する。</p>	<p>・出来たあとに、読み返すことを意識させる。</p>	
	5 6	<p>○説明する文章を推敲し、清書をする。</p>	<p>・感想を交流する際は、分かりやすかったところや初めて知ったことについて考えさせる。</p>	
	7	<p>○書いた説明文を紹介し、感想を交流する。</p>		

6. 本時の学習

(1) 目標 接続語を適切に使ったり、作り方が分かりやすい順番で事例を挙げたりして説明文を書いている。

(2) 展開

【書くーウ】

学 習 活 動	主な発問・児童の反応	支援のための留意点《評 価》
1 前時までに身に付けたわざ5つの振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「はじめ」「中」「終わり」で書く。 ・言いたいことを最初に言う。 ・絵や写真を使って一つの段落には一つのくふうを書く。 ・接続語を使って、文をつなぐ。 ・「作り方が分かりやすい順番」で例をならべる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物を見せながら、振り返りをさせる。 ・全てのわざは読み手のためのものだというを確認する。
5つの「わざ」を使ってオリジナル説明文の下書きをしよう。		
2 書く際の「ポイント」について発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ○自分で決めた書くときのポイントは何か発表しよう。 ・読む人が分かりやすいように「中」を「作り方が分かりやすい順番」にしようと思います。 ・接続語を間違わずに使おうと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み手に読んでもらいやすいように書いた書き方の「ポイント」を考えさせることで、ただ書くのではなく、わざを意識して書く意識をもたせる。 ・「ポイント」を「事例の並べ方」「接続語の使い方」「各段落の書き方」「その他」の4つに観点を絞る。
3 5つの「わざ」を使って、オリジナル説明文の下書きをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○今までに学習してきた「わざ」を使って、オリジナル説明文の下書きをしよう。 ・「はじめ」には、調べた材料についての話題を書こう。 ・「中」には作り方のくふうとできた食品を書けばいいのかな。 ・「中」の順番は作り方が分かりやすい順に書いたら読んでもらいやすそうだな。 ・「中」の各段落には、一つのくふうを書いて読んでもらいやすくしよう。 ・「ポイント」は「中」の並べ方にしよう。 ・2つ目の内容だから「次に」という接続語を使おう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「はじめ」「中」「終わり」のまとまりに分けているワークシートを用意しておき、書きにくい児童の助けとする。 ・「さらに」「次に」「また」「いちばん分かりやすいのは、」などいくつかの接続語から選びとる形で接続語を書かせることで、接続語の働きを意識させる。 <p>《書く》接続語の働きや事例の並べかたなど既習のわざを理解しながら説明文を書いている。(ワークシート)</p>
4 下書きを交流する。 ・班で交流する。 ・全体で交流する。	○下書きを友だちに伝えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・班の交流の際に、聞く側は、発表者の「ポイント」に対しての感想を一言付箋に書き、発表者に渡すことで、発表者は清書までに推敲できるようにする。
5 振り返りをする。 ・班で交流する。 ・全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ○今日、実際に下書きをしてみて、上手くいったと思う点と直さないといけない点をワークシートに書こう。 ・良かった点は、○○さんに何が言いたいかが分かりやすいと言われたことで、直す点は、「さらに」と「次に」の接続語の順番を入れ替えるところです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りでは、友だちからもらった付箋を参考にすることを伝えることで、何を書けばよいかを明確にする。 <p>《関心》友だちからの意見をとり入れ清書をする活動に活かそうとしている。(ワークシート)</p>

7. 研究の視点 ・5つの「わざ」を使って、オリジナル説明文を書くことができていたか。